

発達障害を持つ 子どもへの接し方

2022.11.30合志市社会福祉協議会研修会

発達障害児が引き起こす 問題行動にどう対処するか

問題行動に対処するためには

- ▶ 問題行動が何で起こっているかを知ること
- ▶ それを強化している要因が何かを理解することが必要。

そのために子どもの行動を分析し理解することが必要

自閉スペクトラム症 (ASD) とは

- 「対人関係や社会的なやりとりの障害」
- 「こだわり行動」

という2つの基本特性がある (DSM-V)
もちろん背景にコミュニケーションの障害もある

対人関係や社会的なやりとりの障害

- 人との関わりが苦手
- 場の空気を読みとることが苦手
- 比喻や皮肉が解り難い
- 相手の気持ちや暗黙のルールを理解すること等が難しい
- 言われたことを表面的に受け取ってしまう

など、社会的な場面での困難さが続くことを指す。

こだわり行動

- 物の配置
- 物事の順番
- 勝敗
- 自分のやり方
- 興味や関心の極端な偏り

への強い固執



などを指す。こだわりの程度や種類はひとり一人異なる。

- 手先が不器用、感覚刺激に過敏・鈍いなどの特性が見られる。

自閉スペクトラム症（ASD）は脳の障害

- 生まれつきの脳の機能に何らかの不具合があるために起こるものと言われており、親の躰や育て方、本人の性格とは無関係である。
- 脳の機能の不具合によって起こる障害であるため完全に治るということはない。
- 対人関係や社会性の困難に対する配慮と、本人の特性にあった環境調整や療育・教育によって、症状の改善や発達の促進が期待される。

『DSM-V』より「自閉スペクトラム症」に統合

発達障害の診断基準に使われている『DSM-V』では、
それまで自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害など診断名が分かれていたものが、境界なく連続したものと捉えられるようになり
「自閉スペクトラム症」が初めて診断名として採用された。

自閉スペクトラム症（ASD）の子どもの特徴

- 子どもの自閉スペクトラム症（ASD）のサインや特徴的な行動について、特に発達特性が表れやすいと言われている1歳、2歳、3歳、就学前と年齢別に解説する。
- ただしそれぞれの年齢段階での行動特徴には個人差もある。

年齢別の行動特徴

生後～1歳の例

- ・ 抱っこをいやがる
- ・ あまり泣かない・あやしても笑わない
- ・ ミルクを飲まない・偏食ぎみ
- ・ 寝つきが悪い・すぐ目を覚ます など

2歳～3歳の例

- ・ 発語や言葉が遅い
- ・ 名前を呼んでも反応しない
- ・ 人と視線をあわせようとしない
- ・ ひとり遊びを好む
- ・ 一緒に見てほしいものを指し示すことが難しい
- ・ 触られることを嫌がる

小学校入学前(4～6歳)の例

- ・ 特定の順番で活動することや道順やものの位置などにこだわる
- ・ 集団行動をするのが苦手
- ・ 同年齢の友達とうまく遊ぶことができない(自分勝手な行動をとったり、状況を読むことができないなど)
- ・ 同じ遊びを繰り返す
- ・ ごっこ遊びが苦手 など

自閉スペクトラム症（ASD）の子どもへの対応方法

自閉スペクトラム症の子どもはその特性のため苦手な場面がある

- ・言葉での説明が伝わりづらい
 - ・時間を守ることが苦手
 - ・相手の気持ちや表情・身振り手振りが分からない
 - ・光や音、温度、匂いなどに過敏に反応する（感覚過敏）
- など

「1つのことに集中して取り組むことができる」「行動力がある」など、特性を子どもの個性ととらえることや、親や周囲の人が特性を理解し、褒める機会を増やし、自信を感じ易い接し方をすることで達成感や安心感を得ることができる。

自閉スペクトラム症(ASD)の子どもへの対応方法

※言葉での説明が伝わり難い

ASDの子どもは

- 抽象的な言葉や言い回しの理解が難しい
- 注意の切り替えができない
- 複数のことを同時にすることが苦手



「手を洗ってから、おやつを食べる」といった、2つのことを一度に伝えようとすると、言葉を聞き逃してしまう。

対応方法

- 短い文章で、1つずつ伝える
- 注意をひいてから伝える
- 具体的な言葉で伝える
- 視覚的に伝える
など



自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもへの対応方法

※時間を守ることが苦手

- 時間など目に見えない概念を理解することが不得意
- 予定がいつ始まって、いつ終わるのかが分からない

↓
不安を感じる。

対応方法

- いつ、何をするか作業の見通しを伝える
- 時計のイラストつきの予定表・タイマーなど、視覚的に伝える



自閉スペクトラム症(ASD)の子どもへの対応方法

※相手の気持ちや表情・身振り 手振りが分からない

- 表情や身振り手振り、視線などから、相手の状況を読むことや気持ちを理解することが不得意。
- 結果的に友だちを意図せず傷つけたり、集団行動を乱してしまったりすることがある。



対応方法

- 表情だけではなく言葉や動作なども交えて伝える
- あれ・それなど、代名詞は避ける
- ルールや指示は分かり易く伝える



自閉スペクトラム症(ASD)の子どもへの対応方法

※光や音、温度、匂いなどに過敏に反応する(感覚過敏)

- 感覚過敏のある子どもは、音や温度、匂い、光など、感覚刺激に敏感に反応する。
- 過敏な感覚がパニック癇癪を引き起こす原因になることもある。
- 一方、痛み等には鈍感な子どももいる。



対応方法

- 装飾のない静かな環境を用意する
- 音や光など、感覚刺激の原因になるものを少なくする
- 騒がしい場所ではイヤマフや耳栓、フードをかぶる など
- そのほかにも、自閉スペクトラム症(ASD)の子どもは、さまざまな場面で困り事を抱えて不安を感じ易く、自己肯定感が育まれ難い。